



1



2



3



4

1 信濃町に1台しかない救急車、限りある救急資源だそうです/ 2 めったに見る事の出来ない救急車の中は、たくさんの器具や担架で狭く感じました/ 3 救急車の中は様々な医療機器がありました/ 4 医療機器に囲まれて可愛らしいぬいぐるみもありました。小さなお子さんのため、優しいなあと思いました。

雨の場合も考えて患者さんの顔だけでも濡れないように、傘も用意してあったりと消防署の方々の心遣いを感じる事ができました。



5

気道確保のため、チューブを気管挿管しているところです。



6

3人がチームワークよく、素早い動きで処置を行っていました。



7

搬送中も車内で医師と連絡を取り合い、医師の判断により点滴を行います。



8

注射を刺しているところです。針を抜くときは周囲にも注意します。



町の安全を守る消防署

災害、救急などあらゆる緊急時の備え、私たちの安全・安心を見守っている鳥居川消防署信濃町分署。その鳥居川消防署信濃町分署を信濃町に住んでいる高校生が探ります。高校生の目線から消防署の仕事をレポートします。(高校生の写真と記事で作られています)



4

人工呼吸と胸骨圧迫を行っている様子です。

水難の訓練では、まず意識確認をしていました。



1



3

身体を固定し毛布に包んで救急車へ移動するところです。



2

胸骨圧迫はずっと続けていました。

病院まで安全に悪化させることなく、また家族に説明などもしながら処置を行っていました。さらに、救急車の中でその患者さんの病状に合わせて医師からの連絡を取りながら処置していく、時間にも追われながらの大変な作業だと感じました。

9 月1日は関東大震災がありました。また、9月9日は救急の日で、住民の皆さんの救急への関心を深めていくものです。今回は、防災の日と救急の日ということで、信濃町の鳥居川消防署信濃町分署へ取材に行きました。水難の場合を予測しての訓練を実際に見せていただきました。三人一組で人形を使った蘇生の訓練でした。救急の方々は、暑い中の訓練でも本当に真剣で完璧なチームワークと素早い行動、大きなかけ声に圧倒されました。いざという時のために、日々皆さんの訓練をしているそうです。



長野県北部高等学校
ながはし みわ
長橋 美和さん
信濃町在住

大人への一步、「働くこと」を考える

8月1日、2日の2日間、高校生1人が役場に職場体験にやってきました。名前は長橋美和さん。今回は総務課庶務係で「広報しなの」の取材編集の業務を体験しました。1日目はまずパソコン操作、午後は取材を体験し、2日目は取材の編集をしました。長橋さんに実際に写真を撮ってもらい、記事を書いていただきました。その内容が、今月号の特集2～5ページになります。



①デスクワーク

広報しなの8月号のウェブ版を作成しています。白黒の写真などをカラーにしていきます。デスクワークも大切です。



②撮影

消防署の取材。救急訓練の場面で、ローアングルで迫力のある写真に挑戦しています。



③取材

消防署での取材。取材の基本は話を聞くこと。消防車の説明を聞いて、一生懸命にメモを取っています。



④記事を作成

取材で自分で撮った写真を整理して、メモや写真も参考にしながら、話を聞いた内容をパソコンに打ち込む長橋さん。

8月1日と2日の2日間、信濃町役場で職場体験をさせて頂きました。「広報しなの」担当の水澤さんに広報の構成やどのように出来ていくのか細かく丁寧に教えて頂きました。実際にパソコンで、インターネットに載せる広報の色付けやリンクの作り方などもやらせて頂き、カメラの使い方など沢山のことを学ばせて頂きました。

1日目は取材に消防署に取材に行きました。2日目は自分で文章を作ることをさせて頂きました。役場のみならず、沢山の忙しい中、優しく接して下さいました。とても貴重な体験が出来て本当に良かったです。ありがとうございました。

編集後記



上にはハンゴも装備しているそうです。



上はチェーンソー、下はエンジンカッターで、コンクリートも切ることができるそうです。



消防車の後ろには、9本ものホースが詰め込まれていました。延ばすと180mにもなるそうです。



大ハンマー、木槌、斧など、あらゆる状況に備えて用意してあります。



新型の消防車には泡が出て少量の水で高い消火性能を有するものも装備されているそうです。



消防車の助手席に乗らせていただきました。指令システムナビがついていて、すぐに災害地点もわかり、迅速に対応できるそうです。

② 消防車の仕組みを知る

信濃町分署にある 新型タンク車の仕組み

今年の2月に配備された新型のタンク車はこれまでの消防車と何が違うんだろう？その中身を調べてみます。



今年2月に導入された新型の消防車です。消防隊の方は大きくて火災・救護にも対応でき、心強いと話していました。

消防車の方は、今年2月導入した新型の消防車です。消防車には、タンクが装備されていて、1.5tの水が積まれています。少量の水でも高い消火性能を発揮するための、泡を出す機能もあるそうです。器材も火災や救護、様々な状況に応じるためにいろいろなものがありました。さらに、昔は水の圧力をホースの長さによって署員の人が計算していましたが、今は機械で設定できるので、負担が減ったそうです。

宮沢分署長にも、お話しを伺いました。火災・救急の件数を見て頂くと、今年は7月時点で154件、去年の長野市消防署内の火災合計を既に超えているという事に驚きました。その内、町内の火災件数も8件あり、例年に比べると、とても多いとのことでした。

今回取材に行ってみて、消防署のことについて知らなかったことが沢山出てきました。とても親切に消防署の方々が教えてくださり、貴重な体験をすることができました。本当に良かったです。町の安全を守っている方々に実際にお会いしてみたい、日々の訓練など間近で見ることができ、その真剣さを感じ、これからの暮らしも安心していただけるなと感じました。

長野市消防署管内の火災・救急件数

	平成 24 年				平成 25 年			
	管内 火災	町内 火災	管内 救急	管内 火災	町内 火災	管内 救急	町内 救急	
1月	10		1,508	10		1,590	56	
2月	12	2	1,409	7		1,487	38	
3月	9		1,369	39	1	1,505	41	
4月	12		1,376	26		1,310	34	
5月	12		1,344	35	3	1,429	34	
6月	18	2	1,226	23	2	1,422	43	
7月	9		1,447	14	2	1,525	41	
8月	11	1	1,647					
9月	14	1	1,394					
10月	9	2	1,466					
11月	11		1,410					
12月	7		1,750					
計	134	8	17,346	154	8	10,268	287	